

(平成22年10月分)

部 門	市況の概要
野 菜	10月期の野菜の入荷状況は、夏期の高温の影響等により多くの品目で作柄が悪く野菜全体の入荷量は、前年同期を13%下回った。 価格は、入荷減により多くの品目で単価高となり、野菜全体としては、前年同期を27%上回った。 品目別には、ピーマンが入荷増の単価高となり、ナスが入荷増の単価安となり、長大根、西洋にんじん、はくさい、キャベツ、ほうれんそう、レタス、きゅうり、トマト、ばれいしょ、玉葱が入荷減の単価高となった。 根菜類は、入荷が7%減少し、価格は30%高となった。 葉菜類は、入荷が16%減少し、価格は48%高となった。 果菜類は、入荷が19%減少し、価格は37%高となった。 土物類は、入荷が13%減少し、価格は24%高となった。
果 実	10月期の果実の入荷状況は、開花期の天候不順と夏場の高温の影響等により多くの品目で作柄が悪く果実全体の入荷量は、前年同期を27%下回った。 価格は、入荷減により多くの品目で単価高となり、果実全体としては、前年同期を42%上回った。 品目別には、ふじりんごが入荷増の単価高となり、みかん、津軽りんご、富有柿、刀根・平核柿、巨峰、アールスメロンが入荷減の単価高となった。 柑橘類は、入荷が36%減少し、価格は38%高となった。 りんご類は、入荷が17%減少し、価格は37%高となった。 柿類は、入荷が51%減少し、価格は80%高となった。 ぶどう類は、入荷が20%減少し、価格は32%高となった。 メロン類は、入荷が16%減少し、価格は8%高となった。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長大根 西洋人参	北海道を中心に、青森県、石川県、岩手県、新潟県からの入荷。 各産地ともに夏期の高温の影響から作柄が悪く、入荷量は、前年同期を５％下回った。 価格は、全国的な品薄状態であったことから、前年同期を５．９％上回った。 北海道を中心に中国、オーストラリアからの入荷。 主力の北海道産は、夏期の高温の影響から作柄が悪く入荷減となった。中国産、オーストラリア産の入荷は、著しく増加したものの全体では、前年同期を１０％下回った。 価格は、全国的な品薄状態であったことから、前年同期２８％上回った。
【葉菜類】 はくさい キャベツ ほうれんそう レタス	長野県を中心に、滋賀県、茨城県、北海道、群馬県からの入荷。 各産地とも夏期の高温、干ばつの影響から作柄が悪く、入荷量は、前年同期を１２％下回った。 価格は、入荷減と加工業務用の堅調な需要により、前年同期を５．６％上回った。 群馬県を中心に、長野県、茨城県、愛知県、北海道からの入荷。 各産地とも夏期の高温、干ばつの影響から作柄が悪く、入荷量は、前年同期を１９％下回った。 価格は、入荷減と加工業務用の堅調な需要により、前年同期を７．２％上回った。 岐阜県を中心に、京都府、滋賀県、茨城県からの入荷。 各産地とも夏期の高温、干ばつの影響から作柄が悪く、入荷量は、前年同期を１０％下回った。 価格は、入荷減により前年同期を９％上回った。 長野県を中心に、茨城県、兵庫県、長崎県、徳島県からの入荷。 産地とも夏期の高温、干ばつの影響から作柄が悪く、入荷量は、前年同期を３３％下回った。 価格は、全国的な品薄状態から前年同期を１７．３％上回った。
【果菜類】 きゅうり なす	滋賀県、北海道を中心に、群馬県、京都府、宮崎県からの入荷。 滋賀県産では、夏期の高温の影響による生育の遅れていた入荷が本月にずれ込み入荷増となったものの、北海道産では、作柄が悪く全体の入荷量は、前年同期を９％下回った。 価格は、入荷減により前年同期を２．９％上回った。 京都府を中心に高知県、徳島県、岡山県、岐阜県からの入荷。

トマト	各産地とも本月下旬の気温低下の影響から下旬以降は、入荷の減少がみられたものの、中旬までは、天候に恵まれ、入荷量は、前年同期を24%上回った。 価格は、入荷増により前年同期を9%下回った。 岐阜県を中心に、北海道、茨城県、滋賀県、熊本県からの入荷。多くの産地で夏期の高温、干ばつの影響から作柄が悪く、前年同期を42%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を71%上回った。
ピーマン	大分県、茨城県を中心に、兵庫県からの入荷。 各産地とも夏期の高温の影響から作柄が悪かったものの、中央集散機能の発揮により入荷量は、前年同期を13%上回った。 価格は、入荷増ながら、全国的な品薄状態であったことから前年同期を57%上回った。
【土物類】 ばれいしょ (メーク含む)	北海道を中心とする入荷。 夏期の高温の影響から作柄が悪く、入荷量は不作であった前年同期をさらに3%下回った。 価格は、全国的な品薄状態から、単価高であった前年同期をさらに25%上回った。
たまねぎ	北海道を中心に、兵庫県、中国、京都府からの入荷。 主力の北海道産は、夏期の高温の影響から作柄が悪く入荷減となった。兵庫県産の冷蔵品の前進出荷や中国産の入荷が著しく増加したものの全体では、前年同期を21%下回った。 価格は、全国的な品薄状態から、単価高であった前年同期をさらに23%上回った。
【その他野菜】 松茸	国外は中国、アメリカ、韓国を中心とし、国内は和歌山県、長野県、岩手県を中心とする入荷。 国内、国外ともに、豊作であったことから入荷量は、前年同期を69%上回った。 価格は、入荷増により前年同期を47%下回った。
栗	愛媛県を中心に、京都府、熊本県、茨城県、島根県からの入荷。 生育の遅れていた京都府産の入荷が本月に集中したことから全体の入荷量は、前年同期を45%上回った。 価格は、上旬は、入荷減により単価高で推移し、中旬以降の入荷の集中により、一時的に単価安となったものの、本月全体では、前年同期を12%上回った。

主要品目（果実）	市況の概況
みかん	和歌山県を中心に、福岡県、熊本県、長崎県、愛媛県からの入荷。本年は、裏年のため上に着果数が少ない上に、夏期の高温の影響から日焼け果が大量に発生したこと、更に9月まで続いた高温の影響から着色が遅れたことにより入荷量は、前年同期を36%下回った。 価格は、入荷減と食味良好であることから需要増となり、前年同期を38%上回った。
津軽 （サン含む）	青森県からの入荷。 春先の天候不順による開花の遅れや夏期の高温の影響から作柄が悪く、入荷量は前年同期を27%下回った。 価格は、入荷減とみかんや柿などの競合果実の入荷が少なく需要が集中したことにより前年同期を87%上回った。
ふじ （サン含む）	青森県を中心に、山形県、北海道、長野県からの入荷。 春先の天候不順による開花の遅れや夏期の高温の影響から作柄が悪かったものの、中央集散機能の発揮により入荷量は、前年同期を5%上回った。 価格は、入荷増ながらみかんや柿などの競合果実の入荷が少なく需要が集中したことにより前年同期を前年同月を18%上回った。
富有柿	奈良県を中心に、福岡県、和歌山県、京都府、山梨からの入荷。 各産地とも3月の晩霜害の被害と夏期の高温の影響による日焼け果の多発により入荷量は、前年同期を75%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を43%上回った。
刀根・平核無柿	和歌山県を中心に、奈良県、福井県、愛媛県からの入荷。 各産地とも3月の晩霜害の被害と夏期の高温の影響による日焼け果の多発により入荷量は、前年同期を43%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を87%上回った。
巨峰	長野県を中心に、山梨県からの入荷。 各産地とも春先の天候不順と夏期の高温の影響による日焼け果の多発により入荷量は、前年同期を44%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を44%上回った。
アールスメロン	茨城県を中心に、静岡県、熊本県、石川県、高知県からの入荷。 静岡県を除く多くの産地で、作付け面積が減少していることから入荷量は前年同期を14%下回った。 価格は、入荷減と堅調な業務需要から前年同期を9%上回った。